

# 少年

第432号(1) 令和4年3月(弥生)発行



山梨県警察本部  
生活安全部 少年・女性安全対策課  
甲府市丸の内1-6-1  
055-221-0110 内線3082  
少年対策官 山岸正人



## 心を省みる



今年度も終わりを迎えようとしています。この1年も制限された学校行事や部活動…。コロナ下の学校生活、思うようにいかないことが多かったという人は少なくないでしょう。悲しい、悔しい思いをした一方で、困難に直面しても、あきらめず、みんなでアイデアを出し合って、乗り越えてきた経験は、みなさんを成長させ、どんな困難にも乗り越えるすべがあることをおしえてくれたことと思います。そして、共に過ごした仲間、支えてくれた先生、家族の存在は心を強くし、勇気を与えてくれたはずです。

春、別れと出会いの季節。この1年間で得たものや支えてくれた人の思いを感じながら、次のステージに向けて、新たな一歩を力強く踏み出してほしいと思います。

### 「恕(じょ)」

子貢問ひて曰く、「一言にして以て終身之行ふ可き者有りや」。

子曰く、「其れ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿れ」。(衛霊公 第十五)



これは『論語』にある孔子の言葉。この書は、孔子が弟子たちの質問に答えるかたちでやりとりされている会話集になる。

孔子は弟子の子貢から次のような質問を受けた。「先生、たった一語で、一生それを守っていけば、間違いのない人生が送れる、そういう言葉がありますか」。

孔子はこう答えた。「それは、恕かな。自分がされたくないことは人にしてはならない、それが恕だ」。恕とは、思いやりのことである。

他を受けいれ、認め、その気持ちを思いやる。自分のことと同じように、人のことを考える。そのことこそ、人生で一番大切なことだと、孔子は教えたのである。

『論語』は、2500年前に書かれたとされる。

現在は「多様性」がキーワードとされる社会といえる。一方で自分と違う考え方や文化、習慣によって、他を排除する動きが世界中で広まりつつある。また、様々な不安要素から、心の余裕が失われ、「人のことは関係ない」「自分さえよければいい」という利己主義的な考え方や行動を目にすることも少なくない。

四季折々一年の時の流れに重ねながら、日本の将来に対する思いを書いた松下幸之助著『続・道をひらく』(PHP研究所)に「さくら」という一編がある。

「さくらのつぼみが日に日にふくらんでいる。長く寒い冬を、小枝にしがみつくようにして耐えてきたのが、今日このごろは、ふっくらと色づいて、花ひらく日の喜びを春風に託している。桜花らんまんを待って浮かれるのもよいけれど、色づくつぼみを仰いで、その耐えてきた機微(非難性懐化)を、そっとねぎらうのも、また人間らしい思いやりであろう。

人の歩みの花ひらくのも、長く辛い忍耐の末にあるのかも知れない。だからこそ耐えぬいた人生の開花を見るとき、人は惜しみなく賞賛をおくる。しかしまた、未だ花ひらかず、じっと人の世の寒風に耐えている、さきやかな歩みに対しても、心を込めた、いたわりと、はげましを与え合うのも、人間だけができる思いやりの世界であろう。

人の心が乱れてくると、ともすれば耐えることを忘れ、讃えることを忘れ、いたわりと励ましの思いやりも忘れがちになる。

そして、人の世の乱れはさらに増す。せつかくのこの季節、さくらのつぼみを仰いで、しばしわが心を省みたい」。

どんなに社会が変化しようとも、「時代を超えて変わらない価値のあるもの」を大切にしたい。そして、それらをしっかりと身につけてほしいと願う。

### 「三角柱」

カウンセリングで使用するという「ある三角柱」。

この三角柱の一面には、「悪いあの人」、

もう一面には「かわいそうな私」。

そして、見えていない一面には「これからどうするか」、と書かれている。

この三角柱は、人の心を表しているという。

人はカウンセリングだけでなく、家族や友達らに、悩みや相談事を打ち明けるとき、「悪いあの人」を非難するか、「かわいそうな私」をアピールするか、結局、この2つのことを語っていることが多いそう。確かに私たちは何かが少しでもうまくいかなければ他人や環境のせいにしてしまいがちだ。

この三角柱に関する実験がある。カウンセリングの相談者にこの三角柱を渡し、側面に書かれている「悪いあの人」、「かわいそうな私」「これからどうするか」のうち、話したいことを選んでもらうと、多くの相談者が「これからどうするか」を選び、その中身を考え始めることが明らかになった。

「もしあの時、ああしていたら」、と過去を振り返り、悔やむことはよくあることだ。しかし、実際に起こってしまったことは、もう変わることはない。

「今、この時」をどうすればよいかと、改めて考えさせてくれる言葉がある。「過去と他人は変えられない。しかし、自分と未来は変えることができる」

4月、慣れ親しんだ環境から新たな環境に飛び込んでいくときであり、不安を感じることもあるだろう。

しかし見方を変えると環境の変化は、今の自分を変えていくチャンスでもある。考えるべきは「これからどうするか」。そして、取り組むべきは次に向けて動くことである。

出典：岸一郎 古賀史健『幸せになる勇気』ダイヤモンド社

発行番号は昭和61年初号からの通算番号です。

[https://www.pref.yamanashi.jp/police/p\\_syonen/shonenkoho.html](https://www.pref.yamanashi.jp/police/p_syonen/shonenkoho.html)

## 春休みの少年非行防止に努めよう



卒業、進級、進学、就職……「春休み」は、少年の生活環境が大きく変わる時です。新しい生活への期待感、不安感、そして開放感が交錯する中、ともすると生活のリズムが乱れがちになります。飲酒、喫煙等の不良行為、さらにはSNS利用によって被害に遭う少年も少なくありません。家庭、学校、地域が連携し、少年の非行等の防止に向けた取組を推進していきましょう。

### 【家庭で】

- 規則的な生活習慣
- 小さな変化を見逃さない
- 子供との会話
- 学校からの注意事項の確認
- スマホに振り回されないルールづくり

### 【学校で】

- 不良行為防止のための事前指導
- 家庭及び関係機関との連携
- ネットモラル、マナーに関する指導

### 【地域で】

- あいさつ運動
- 安全に関わる情報を共有し、迅速な対応
- 関係機関と協力し、有害環境の浄化

## 「春のあんしんネット・新学期一斉行動」 令和4年2月～5月 実施

多くの少年が初めてスマートフォン等を手にする、春の卒業・進学・進入学の時期（2月～5月）に特に重点を置き、県や市町村、関係団体が連携、協力し、「春のあんしんネット・新学期一斉行動」として、スマートフォンやSNS等の安全・安心な利用のための啓発活動等の取組を集中的に展開しています。

ペアレンタルコントロールの普及促進（フィルタリングや家庭内ルール作り等）や少年がインターネットを適切に活用する能力の向上に重点を置いた諸活動を推進することとしています。皆様のご協力をお願いいたします。

## 保護者が知っておきたい4つの大切なポイント

### Point①

#### 時間の長さだけでなく中身に着目

何にどのくらいつかっているのかを、一緒に確認しましょう

学習での活用も増え、子供のインターネット利用時間はより一層長くなっています。「いつまでやってるの!？」と頭ごなしに叱らず、子供がどんな使い方をしているのか、内容と時間を把握することが大切です。



### Point②

#### ゲームプレイは“個”から“グループ”へ

保護者と一緒にプレイしなくなる時期こそ、しっかり見守る

一人で、リアルな友達と、ネット上のグループで協力しながら等、ゲームは多様な遊び方があります。高額課金やID乗取り等のトラブルだけではなく、誘う・誘わない、アイテムをもらった・もらわなくてもめたり、一人抜けできず長時間プレイになったりといったことも生じています。また、プレイ中のチャットや音声でのやり取りから、個人情報が出たり、誘い出しのきっかけになってしまうこともあります。保護者は、子供がどんなゲームをしているか知っておくとともに、対象年齢に達しているかを確認したり、スマホやゲーム機のペアレンタルコントロール機能を活用したりして、子供の安全利用を見守りましょう。



### Point③

#### SNS等でのいじめや誹謗中傷、どう対処すべき?

相談しやすい親子関係をつくり、話はじっくり聞いてあげる

子供が一人で悩みを抱えないためにも、普段から「困ったら何でも相談にのるよ」と声かけをしましょう。そうすると子供は相談しやすくなります。

相談されたときには、子供の話をじっくり聞いてあげてください。保護者が大騒ぎしてしまうと、相談しにくくなってしまいます。じっくり聞いたうえで「どうしたい?」と聞いてあげましょう。



### Point④

#### 動画や写真は危険がいっぱい

動画や写真の投稿で注意すること

面白がって撮ったり、友人・知人の情報が含まれるものを投稿することで、不快感やトラブルを生むこともあります。どんな投稿がトラブル原因になるか親子で考えてみましょう。

写真や動画の投稿サービスやアプリの多くは中学生以上が対象。年齢に満たない子供の投稿は、保護者のアカウントで一緒に行うようにしてください。



### フィルタリングは必ず設定しましょう!!

SNS上で被害に遭った児童の約9割が、被害時にフィルタリングを利用していませんでした。フィルタリングには子供の年齢等に応じて利用時間を設定したり、アプリケーションの利用を個別に許可または制限することができる機能もあります。また携帯電話機だけではなく、タブレットや携帯ゲーム機等の子供が利用する機器に応じた適切な管理が重要です。子供に携帯電話機等を持たせる場合は子供を犯罪から守るためにも保護者の皆様が積極的にフィルタリングの設定をしてあげましょう。